

第1回「教育改革10年を未来につなげる会」知事あいさつ

平成18年9月7日(木) 13:00 ~ 17:00
高知会館2階 白鳳の間

皆様こんにちは。

皆様方には、「教育改革の10年を未来につなげる会」の委員にご就任いただきまして、まことに有り難うございました。また、本日はお忙しい中、ご出席をいただいたことにも心からお礼申し上げます。

ふり返ってみますと、土佐の教育改革は、私が二期目の公約として重要な大きなテーマの一つとして掲げたものでございました。そして平成8年度に第1期と言いましょか、「土佐の教育改革を考える会」というものをスタートさせました。

その当時は、まだかつての勤評闘争など以来の教育界の関係の方々の中でのわだかまりと言いましょかズレというものが大きくあった時代で、同じテーブルで議論を戦わすことさえあまり無かったころではないかと思えます。そういう意味で、同じテーブルで教育について議論したということがまず、スタートの大きな意義であったと思えますし、そうした中から、考え方とか立場に違いはあっても、子どもたちが主人公なんだということに変わりはないではないかということをもみんな共通の認識としてスタートさせてきたのが、この土佐の教育改革でございます。

その中から、教員の長期社会体験研修ですとか授業評価システムというようなものを通じましての、教員の資質の向上、また意識の改革というようなこと、さらには地域ぐるみでの教育、また開かれた学校づくり等々、さまざまなテーマを掲げて取り組んでまいりました。

その後、平成13年度に第2期の土佐の教育改革を考える会も開きまして、市町村にも、学校の中にも、おらが町、わが村の、またわが学校の課題は何かということを考えて、自主的に動いていくという気運が芽生えてきたのではないかと思います。

またそのことは、学校から地域に保護者に、子どもたちにもだんだんと広がってきて、その点を評価をいただく声というものも私は確実にあると思っています。

一方で、中学校での学力の問題、またそれを引きずった高校での基礎学力のこと、さらには、いじめや、不登校や、長期欠席のことなどなど、まだまだ多くの課題が積み残されていることも事実でございます。

併せてこの10年ということを考えますと、子どもたちを取り巻く社会環境、高知県の場合は経済環境ということも含めてでございますが、これも大きく変化というか悪化をしてきております。

この5月に、高知市内のある中学校を訪問をさせていただきましたが、正直を言って教育とか学校で請け負えるというか、その守備範囲を超えた社会の環境、経済環境の問題というものが、子どもというものを通して学校に持ち込まれているという現状を強く感じましたし、またそれに先生方が懸命に立ち向かっておられる姿に、正直頭が下がる思いがいたしました。

またその後、中央児童相談所で職員の皆さんと話をしました時にも、学校との連携、学校の中

に従来からのいわゆる教育・教員のスタッフとは別のスタッフが必要な時代ではないかというような話もございまして、この10年、最初は公教育に対する県民のみなさん方の信頼を取り戻す、また確立していくということが大きなテーマでございまして、今もそうでございますけれども、それとともに、この10年はこうした社会・経済環境の変化・悪化というものと戦ってきた日々でもあったのではないかと考えています。

今回、この未来につなげる会というものを立ち上げるに当たりまして、10年間をふり返っての総合評価というものを教育委員会事務局でまとめて、皆様方にもまたお話しをさせていただくことになっています。が、これを見るにあたって、それぞれのお立場で評価というものは大きく変わるものだと思いますし、教育というものはまさに、お一人お一人が一家言もっておられるそういう分野でございますので、見方というものは大きく分かれるのが当然であろうと思います。

けれども、私が一つお願いしたいのは、これはだめだ、これはいかんと言ってただ単にもう批判をしようという目で見ていく、また逆に、まあ厳しい中でよくやったねと言ってひいき目だけを見ていく、そういうふうな情報に最初から色を付けて見るのではなくて、ここに現れてくる情報というものを、まさに「子どもたちが主人公」という立場で見た時に、何が足りなくて、今後何をしていけばいいかということをぜひ考えていただきたい。それがこの10年間、教育改革、教育改革と机の上だけで言うのではなくて、少なくともお金も使い、人も投入をして実践をしてきた本県として、これから取り組んでいかなければいけないことではないかということを考えています。

いろんな方にお話しを伺いますと、高知の教育というのは、さきほど申し上げた高知市内の中学校に全ての問題が集約されているので、ここが改善をしていけば全てが変わっていくとおっしゃる方もいらっしゃいます。また、小学校からではなくて、幼稚園、保育所はもちろん幼児のころからの教育というものにもっと目を向けて、行政としての仕組みを作っていかなければいけないというお声もあります。

併せて家庭の教育力がここまで落ちてきた時に、行政がこれまでなかなか手を入れられなかった家庭の教育力ということに、どう取り組んでいったらいいのかというお声もあります。

一方でこの総合評価の中でも、学力という面で結構がんばっておられる地域がある。そういう地域での取組というものをいかに全県下に広げていくのか、横文字で言えばとベンチマークとしてそういうものを活用していくのか、などなど多くのテーマが設定できるのではないかと。またそのテーマの設定にそって何をしていけばいいのかということが、やはり10年の積み重ねのいろんなデータから読みとっていただけるのではないかと考えています。

そういうことをぜひこの32人の委員のみなさま方をお願いをし、お力を借りたいということを考えています。この10年を私は決して無駄な10年ではなかったと思いますし、着実な歩みを見せた10年だと思っていますが、一方で多くの課題が積み残されていることも事実でございますので、ぜひこの10年をまた次の5年か10年か分かりませんが、これからのこの高知の教育に生かしていく、そして子どもたちがもっともっと元気で楽しくくらしがける、学んでいける高知県にしていく。そのために皆様方のお力をお借りしたいということを申し上げまして、私の冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願ひいたします。